



2年生だより

歯学科2年 笹川 祐輝

新潟大学の歯学科に合格し、喜びを噛み締めてから約1年と半年弱。7月現在までの時間の流れは本当にはやいものでした。最初の1年次には比較的自由な時間がたくさんあったのでいろいろなことに挑戦でき充実した一年間でしたが、2年生になってからは時間割に余裕もほとんどなくなり、忙しい日々が続いています。ここでは、臨床の場で体験したことや、部活について、また座学の様子などについて記したいと思います。

まず、1年生の前期で履修した早期臨床実習Iと、2年生の前期で履修した早期臨床実習IIについて合わせて書きたいと思います。早期臨床実習Iでは、グループに分かれて患者役実習、治療見学実習、患者付き添い実習を行いました。初めは白衣を着て病院に出ることに、とても緊張した覚えがあります。1年次の入学後すぐから始まった実習だったので、当然のことながら歯科医療についての知識は全く無い状態での実習でした。わからないことが多くて戸惑うこともありました。実家が歯医者でない自分にとっては臨床の場で体験することすべては新鮮で印象的なものを感じました。2年次での早期臨床実習IIは、早期臨床実習Iの「治療見学実習」の延長のようなものです。これも同様に医療の知識はほとんど無い状態だったので、治療の作業一つひとつの意味を理解することは難しく思いましたが、治療後に先生方が行った治療方法やその根拠などについてわかりやすく説明してくれたので、とてもためになったと思います。早期臨床実習を通して、近い将来に自分が臨床の現場で働いているところが想像でき、モチベーションの向上に繋がったのでこれからの専門科目の学習もより一層真剣に取り組もうと思

うようくなりました。

次に部活について書きたいと思います。私は入学後、硬式テニス部に入部しました。今までに自分が続けていたスポーツは野球のみで、それぞれテニスほとんどラケットも握ったこともないような状態からのスタートでした。1年と少したった今、テニスの実力はまだまだ未熟ですが、優しい先輩方と過ごしたり、大会に参加したりと充実した時を過ごしています。今年からは自分も先輩という立場になったので、後輩達を引っ張っていくことができるように頑張りたいと思います。

最後に座学についてです。座学は1年次の時との忙しさのギャップを痛感しています。只でさえ楽と言われていた歯学科生の1年生用カリキュラムですが、私は同じ新潟大学の教育学部で1年間教養科目を履修して単位をいくつか持っていた関係で、さらに余裕のあるスケジュールでした。前期に無事に単位が取れた結果、1年の後期では週休5日で講義は週2日。1週間で4コマのみという生活を送り、遊ぶ時間はいくらでもあるといった感じでした。しかしながら2年生になって専門科目の講義になった今、持っていた教養科目の単位のアドバンテージも無くなり、時間割はびっしりと埋まりました。要領が掴みきれない専門科目のテストに戸惑いつつも、将来自分が理想とする歯科医になれるようにつらいことも楽しめる工夫をして乗り切りたいと思います。

6年という長い学生生活の中で、これから楽しいこと、つらいことがたくさんあると思います。その経験一つひとつを大切な思い出として心に留めて、歯科医師としてのスタートラインに立つことを目標に努力を続けることができればと思います。

3年生だより

歯学科3年 花城 ひかり

こんにちは、歯学科3年の花城です。私たち3年生の勉強や部活動の様子を紹介させていただこうと思います。

3年生になってからは、解剖学実習や細菌学実習など実習が多かったと思います。解剖学実習の日は朝から夜まで、ずっと学校にいました。私の班は実習のペースが遅かったので学校を出る頃には日付が変わっていることも多々ありました。毎回前向きに取り組み1日中共に過ごした班の皆や、私たちのペースに合わせて夜遅くまで学校に残っていただいた先生方に感謝しています。

私たちは、解剖学実習を通してたくさんのことを学びました。実習に臨むためには膨大な量の予習が必要で、解剖学の教科書を読みながら、この筋はここから起こってここに付着するだとか、この血管はこの動脈の枝だとかいうことを暗記していきましたが、実際にご遺体を前にするとそんなことはほとんど役に立ちませんでした。教科書通りに神経や脈管が走行していなかったり、想像以上に筋が薄くて戸惑ったりと、教科書の暗記では絶対にわからないことに何度も遭遇し、自分たちで考えなければならぬことがたくさんありました。解剖学は暗記の学問ではなく、人体の構造や視覚的な位置を把握することが大切だと実感しました。

解剖学実習を通して私たちは、人体についての知識だけでなく、物事の考え方・進め方、そして1人の人間が存在することの尊さなど、本当にたくさんのことを学びました。私たちのような学生の教育のため、自らの体を献体して下さった方々やご遺族の決意を考えると心がいっぱいになります。私たちのほとんどが、今後二度と解剖学実習を経験することはないと思います。このような貴重な経験を与えてくれた方々に心から感謝しています。

細菌学実習では、実際に自分たちの口の中の細菌を培養し、各自が自分の培養している細菌を同定しました。顕微鏡で観察している時、口の中に膨大な量・種類の細菌がいて、形も性質も様々であることを知って驚きました。これらの細菌が将来の私たちの仕事に大きく関わる齶蝕や歯周病といった口腔疾患を引き起こすメカニズムを学びました。

2年生までは基礎科目の講義が中心だったので、3年生になって経験した解剖学や細菌学の実習を通して、自分たちが歯科医師として医療に携わり、社会貢献するために学んでいるということを再認識しました。

勉強だけでなく、部活動にも積極的に取り組んでいます。ここからは私が所属している軽音楽部について少し紹介したいと思います。

軽音楽部は現在部員17名で活動しています。運動部と兼部している部員もたくさんいて、各バンドで予定を合わせて自由に練習しています。同じ学年の中で組んでいるバンドもあれば、学年に関係なく組んだバンドもあります。

軽音楽部といえばやはりライブです。部員にとってはもちろん楽しみですが、日ごろの練習の成果をってもらうということで緊張する場もあります。10月に行われる歯学祭と、11月の定コン



が特に大きな行事です。歯学祭では講堂で演奏をし、歯学祭を盛り上げる活動の1つとなっています。11月の定コンでは医学部の軽音楽部にも参加してもらい、古町のライブハウスで演奏します。掲載させていただいた写真は去年の定コンのものですが、ライブハウスでのライブは、講堂で行うものとはまた違った、特別な雰囲気を感じられます。

このように軽音楽部は、自由な雰囲気の中で楽しく活動しています。以前よりバンドの数も増え、

より一層充実した部活動になっていると思います。

最後になりましたが、私たち歯学科3年生は楽しく大学生活を送っています。これから講義では歯に関するものが中心になっていきますし、部活動でも幹部学年として活躍していくこととなります。早いもので大学生活ももう折り返し地点を迎えますが、これからも1日1日を充実したものにするため努力していきたいと思っています。



4年生だより

歯学科4年 郡司 泰佑

Q. 「30万円あったら何に使いますか」

よくある類の質問だ。少し考えていただきたい。海外旅行に行く人もいるかもしれないし、新車を買うために貯金する堅実な人もいるかもしれない。ちなみに私は42インチの液晶テレビとブルーレイレコーダーを買いたい。もしかして頑張っただけで価格交渉すれば浮いたお金でiPhone 4も買えちゃうかもしれない。まあ30万円もあれば他にもできることなんていくらでもありそうだ。しかし残念ながら、この歯学部に入った以上はそんな淡い夢は捨てなければならない。4年次の春に30万円の実習機材を一括購入しなければならないからだ。あまりの額にビックリするかもしれないが事実だ。実家にこの請求書が送られてきたとき、私の母親が新手の詐欺と勘違いして私に電話してきたのも事実だ。そう、4年生の春はこの莫大な額の買い物から始まったのだ。こんな買い物をしておいて、今私たちがそれを何に使っているのかを書かないわけにはいかないだろう。その義務がある。これを読んだ下級生たちにどんな実習をしているのかを知ってもらいたいし、なにより覚悟をしてもらいたい(笑)。

インレー、クラウン、全部床義歯、これが前期の実習で製作した技工物である。先に述べた実習機材はこれらを製作する際に使用する。実家が歯

医者でも何でも無い私は、その聞き慣れない謎の専門用語が俗に言う「詰め物、銀歯、入れ歯」と同意語であるのだという脳内変換を実行することから始めた。その低レベルな知識と天賦の才ともいうべき不器用さを持ち合わせた私にとって、常にミリ単位の作業の連続で大胆かつ繊細に行わなければならないこの実習は、案の定困難を極めた。「こんなもん患者様に出せないだろ」「僕だったら君には診療してほしくないな」などの数々の罵声を浴びもした。正直週に2回も朝から夕方までこれらの作業に追われるのが憂鬱でもあった。しかし言われていることはごもともだったし、何よりも技工物が完成していくにつれて生まれたあの不思議な感動のほうが大きかった。幼い頃ガンダム(ガンダムのプラモデルのことです)を1人で作り上げた感動にそれは似ていた。今以上に鍛錬を積み、将来患者様を治療し、口腔内に製作した技工物をいれてあげたとき、患者様の笑顔を見たとき、より大きな感動が得られるのかな、なんて思った。それを考えたら悪くない買い物だったのかもしれない。42型の液晶テレビとブルーレイレコーダーは諦めて、将来歯科医師になったときにでも自分で稼いだ給料で購入することにしよう。

さて、4年生といえば学部内で色々と中心に



なって活動する学年でもある。私は現在軟式野球部に在籍し、主将を務めている。高校までとは違い、監督、コーチがない中で自分が主将として部を引っ張っていくのはなかなか困難ではある。しかし4年生のチームメイトと協力しながら部の中心に立ち、歯科医師という将来の目標を同じくする者で構成されたチームをまとめ全国大会という一つの目標に向かって努力するというのはとてもやりがいがある。今秋に控えているリーグ戦で、上位2チームに与えられる東日本大会の出場権をもし得られたら、是非この歯学部ニュースに我々

の激戦の記録を掲載させていただきたい(笑)。

毎日のように専門的な講義と実習に追われ、部活や学校行事などにおいて常に責任ある立場に立たされる4年生。今までの大学3年間の生活とは劇的に変化した。ただ同年代の友人などが大学を卒業して就職している中、学生生活という名のモラトリアムをあと2年半も続けられるのは幸せなことなのかも知れない。だからこそその残りの2年半、将来のビジョンをしっかりと描きながらも、「あの頃は楽しかったな」と思えるような大学生活をこれからも送っていききたい。



5年生だより

歯学科5年 渡辺真光

歯学科5年の渡辺真光です。

5年生に進級して実感も湧ききらないまま早くも4ヶ月が過ぎようとしています。最初に感じたのは講義・実習内容の変化でした。

4年生までは、教養科目に始まり、基礎的な学問から発展して臨床専門科目や隣接医学など、情報のインプットが講義の大半であったように感じています。実習にしても、欠損補綴学や歯冠修復学、歯周病学や歯科矯正学、小児歯科学などがありました。自分で手を動かすことによって手技や原理を理解していくのが狙いだったと認識しています。

インプットよりもアウトプットに重点が置かれていたという点で、個人的には去年の予防歯科実習が強く印象に残っています。僕の班は「経済的視点から見たフッ化物応用の有用性」というテーマで取り組んだのですが、テーマ・内容ともとても新鮮に感じました。

そして、5年前期の講義の中心は統合科目とPBLになります。前者は、「口腔腫瘍の基礎と臨床」等といった具合に、広い分野に跨った内容を先生方が講座の枠を越えて講義して下さるもので、これまで断片的であった知識同士が繋がっていく実感が得られました。後者は実際の臨床に則したシナリオを起点に、その中の問題点を班の討論によって解決していくといった内容です。これまで習った内容で、取りこぼしていたり、理解が不十分な事柄が浮き彫りになるので知識の補完に役立ちました。

実習の中心は総合模型実習とポリクリになります。前者では、複合的に多くの歯科疾患を抱えた患者様を想定した模型に対し、診療計画の段階から自力で取り組みます。これまでの模型実習でやってきた内容を総復習でき、苦手な操作を習得する契機にもなります。後者は各診療室を回って、



サークルの部員と（渡辺は右から2番目）

外来見学や相互実習を通して臨床実習に進む準備をする実習ですが、多くの診療室で先生方がおっしゃった「次は実際の患者様」という文言が印象に残っています。

この他にも、麻酔や栄養、救命などを学ぶ全身管理学や昨年から続く隣接医学も、やはりこれまでの知識の統合やアウトプットに役立つと感じています。

講義の他にも、個人的に2つの講座で本読み会というものに参加させていただいています。どちらも英語の論文を訳しながら読んでいくという主旨の会なのですが、硬組織形態学の大島先生からは論文の他にも先生が参加された学会などの旬な話題を聞かせていただくことが出来、小児歯科の田口先生からは新大病院の症例を扱った論文を通して実際の臨床を意識した情報を与えていただけなので、参加したことは非常に有意義であったと感じています。講義だけでは繋がりの薄い先生方と、パンや珈琲を頂きながら優雅な朝を過ごしたり、お酒を交えながら賑やかな黄昏時を満喫できたりするのも本読み会の魅力だと思います。

また、私事ではありますが、これからはサークルの方面でも大きな節目に差し掛かると感じています。

現在は入学時に創設した全学制のフェンシングサークルで活動しているのですが、創設者ということで5年間主将の役目に就かせてもらっていました。最初は殆ど2人だけで活動していたサークルですが、全国国公立戦準優勝や関東国公立戦優勝等の結果を残し、登録している部員数も20名を超えるなど、いよいよサークルとしての軌道に乗り始めた実感しています。

しかし、自分自身が主将としてこれまでのようにサークル運営に携わっていける時期も終わりに近づいているため、今後は後輩達にこのサークルを引き継いでいってもらおうこととなります。

顧問になっていただける先生を探したり、フェンシングなんていうマイナーなスポーツをやってくれる部員を集めたり、毎週五十嵐キャンパスまで練習道具を運んだり、それまで出場実績のない大会に参加したり……正直苦勞の絶えなかった5年間ですが、我が子のように思い入れのあるこのサークルの運営を向後は他人の手に委ねると思うと感慨も一入です。しっかりとした形で後続にバトンを渡せるよう、努力していきたい所存です。

この記事を読んだ頃には、自分がCBTもOSCEも無事に突破していることを願いつつ、文末の言葉に代えさせていただきます。



サークル活動の様子



6年生日記

歯学科6年 齋藤直朗

こんにちは、6年の齋藤直朗と申します。部活の後輩や先生方など歯学部で私を知る方々には本名が「さいとうなおろう」だと本気で思われているようですが、「なおろう」ではなく「なおあき」と読みます。今回、そんな歯学部の一部にはびこる誤った認識を是正すべく、歯学部ニュースの原稿依頼を快諾した次第です。……そんなわけではなく、「引き受け手のいない歯学部ニュースの執筆に立候補すれば、今後卒業までクラスに関する仕事はしなくて済むはず！」という不純きわまりない動機で原稿依頼を引き受けたのが実際のところでした。しかしながら、小学校の頃から作文を書くのがとにかく苦手で、原稿用紙半分を埋めるだけでも相当に苦戦をしていた私。原稿の締め切り当日になって、ひどく後悔したことは言うまでもありません。そんな私の拙い文章ではありますが、歯学部6年生の今について書いていこうかと思いません。

さて、6年生である私が今どんな事をしているかと言いますと、「臨床実習」、「進路についてちょっと悩み」、「残りわずかな部活を満喫中」といったところでしょうか。

「臨床実習について」

6年生といえば何と言ってもまずは「臨床実習」でしょう。1・2年次に行われる早期臨床実習において患者様の心情や各診療科の雰囲気を実感し、3・4年次の座学及び基礎実習で治療に関わる知識と基本的技術を学び、5年次の臨床予備実習（通称：ポリクリ）では学生相互実習で互いに診療基本技術の訓練を行います。そしてそれら1～5年次で身に付けた知識と技術を統合し、指導医の先生の下で“学生が実際に”患者様の治療をする。それが5年次10月から6年次にかけて行う

臨床実習です。

そんな臨床実習は模型を相手にした基礎実習とは違い、全ての行為に大きな責任が伴います。しっかりと予習をして、治療の全体的流れをイメージした上で臨むのですが、実際に患者様に対して治療を行ってみるとなかなか思うようにはできず、時間もかかってしまいます。模型実習でも実際の患者様を想定して行うわけですが、あり得ない開口量を誇り、頬も伸び放題なマネキンさんとは違い、実際の患者様は開けられる口の大きさも限られますし、ちゃんとした術野の確保にも結構苦戦します。唾液なんてものではなく、水が溜まってもむせたりはしないマネキンとは見えるものも状況も大きく違います。そして、それに伴う緊張感もまったく異なります。当然ですが、模型実習のように「あっ！ 歯削り過ぎちゃったあ……。」なんてことは許されません。そのような強い緊張感の中で実際に自分が治療を行ってみて気付くことは多く、その一つ一つに重みがあるように感じています。これは、模型実習や見学実習では決して得る事のできないものです。

このような実際に学生が治療に携わることのできる臨床実習が行われているのは、全国29歯学部の中でも数少ないそうで、そのような貴重な経験を学生のうちからさせて頂けるというのは幸せなことです。私たち6年生は多くの患者様、指導して下さる先生方の下にこのようなチャンスをえています。1～5年生のみなさんには近い将来、そのような環境で学んでいくということを頭の片隅に置いて、日々の学生生活を送ってもらえるとよいのではないかと思います。

「進路についてちょっと悩み」

さて、卒業まで1年を切った6年生（口腔生命

福祉学科では4年生)になると、多くの人はそれまで以上に卒業後の進路について悩むことになると思います。私も例外ではなく、進路については大いに悩んでいます。繊細過ぎる私の性格もあってか(……クラスメイトには全力で否定されるでしょうが)、一時期は気が滅入ってしまうくらい進路の心配をしていた時期もありました。進路については先生方や先輩方に相談にのって頂きましたが、そんな中で「別に今の時点で将来何をやるかなんて決め込む必要はないな。」と考えるようになりました。卒業を控えていますから、その後の研修先や就職先を決める必要性には迫られています。が、どのような選択をしても、その後の自分次第でいくらかでも方向転換は出来るはず。むしろ、若いうちは選択肢にある程度幅を持っているくらいがよいのかもしれない。

そんな私が6年生になって思うことは、もっといろんな事にチャレンジしてみても良かったなということです。私がそうであったように、みなさんも普段の講義や実習をこなしていただくだけでも、それなりに大変かとは思いますが、ただ、どんなに忙しいと感じていても、時間なんて作ろうと思えばいくらかでも作れたように思います。とりわけ学生には自由な時間が多くあります。そして大学という所には多くのチャンスが転がっています。私が1年生の頃にはありませんでしたが、他分野の人たちとの関わりを持つことができるダブルホーム制度、歯科学生による研究の実践発表の機会であるSCRIP(スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム)、個人的に各研究室で実験などをさせて頂くことなどがその一例でしょう

か。他にもみなさんがやってみたいことがあれば、先生方はそれに応えてくれるはず。歯学部ですが、歯科という分野にとられる必要だとは思いません。自分の将来に向けての選択の幅を広げることが、大学という場でもあるように思います。この大学という場を大いに活用して、いろんなことにチャレンジしてみてください。そういった中で得られる多くの経験は決して無駄にはならないはず。

【残りわずかな部活を満喫中】

学生だから出来る事といえばたくさんありますが、部活は学部生ならでのことだと思います。私はバドミントン部に所属しているのですが、運動することが大好きで、6年生となった今でもバカみたいに部活に行っています(きっと出席率No.1、2ってくらいに)。5年生の春からは諸事情により野球部にも時折参加させてもらっていただきます。おかげで親には、「あんた、勉強は大丈夫なんじゃないか?」と電話の度に釘をさされる始末ですが……。

さて、長々と書いてしまいましたが、なんとなく6年生についてわかって頂けたでしょうか?この文章が少しでもみなさんの参考になれば幸いです。

最後になりますが、臨床実習に協力して頂いている患者様方、まだまだ力不足な私たちを温かく時に厳しく指導して下さる先生方、いろいろ好き放題やらせて頂いている部活の後輩、そして常に私を支えてくれている両親へこの場を借りて、いつもありがとうございます。



総合診療部を経験して

歯学科6年 小堀 銀河

5年生の10月に先輩から患者様を引き継いでから気付けば9ヶ月が経っていました。この総合診療部に携わった時間は自分の人生の中で一番学ぶことが多かったと思います。

最初は新しい環境で必要な事を覚えるだけで精一杯でした。

何人もの患者様と新しく関わって行くのですが、その患者様の情報は先輩方が代々書き続けてきたプロトコール（治療経過記録の事です）を読んで把握しておかなければなりません。

診療前の器具や書類の準備も不慣れで、時間に余裕をみたくもりだったはずが診療時間ギリギリでなんとか間に合った、ということも何度もありました。診療後はプロトコールに当日の治療内容を書き加え、患者様のその後の治療方針を考えます。実際に自分がその治療を行えるのか治療内容を予習し、必要な書類や手続きを調べます。そして先生に確認や修正をして頂くのですが、当初は先生の居場所がわからず1人で右往左往してしまっていました。プロトコールを抱えて部屋に戻られるのを2時間近く待ち続けたり、行き先表示が違って空室のドアをノックして気まずい思いをしたり。そんな事もよくありました。

他の人も苦労していたのでしょう。同級生の間で先生の所在地や予定といった先生情報が徐々に共有されるようになり、この、先生を探す時間・待つ時間は少なくなりました。

1人での苦労に比べ、人と情報を共有することの大切さを実感したものです。

総合診療部には係の仕事もありました。①治療中のアシストをする支援係 ②電話対応とカルテチェックに加え、使用器具の返却も行う受付係 ③初めて病院にいらした患者様に適切な診療科を

紹介しご案内する予診係、の三つです。

これらの係の仕事は、受付の方や衛生士さんに求める要素、器具の清掃の仕方、電話の応対方法、施設に必要な器具とその手入れ、必要書類、など歯科医院を運営するのに実際に必要な多くのことを学べるとても良い機会でした。

自分で行った初めての診療は今でも忘れられません。

患者様のお顔や口腔内だけでなく診療の手順や技術など確認することの多さに頭が真っ白になり、治療についての説明がループしてしまったり緊張で手が震えたりしてしまいました。それなのにニコニコ笑顔でお口の中を診せてくださいました。申し訳なさと共に尊敬と感謝の気持ちでいっぱいでした。

先生方に「総合診療部にきてくださる患者様は本当に心が優しい方ばかりですよ」と事前に聞いていましたが、本当に優しい方が多いのです。

予約カードの一枚目と二枚目どちらを患者様に渡したらいいのか迷っている私を「ふふ、こちらの方をくださればいいんですよ、立派な歯医者さんになってくださいね」と励ましてくださった方もいました。神様みたいな患者様だと感動しました。

でもお優しくすぎて困ってしまうこともあります。診療中、痛みを顔にしかめながらも「大丈夫ですよ」といわれることもあるのです。優しさに甘えて自分の手技が患者に痛みを与えてないと勘違いせず、しっかり患者様の表情や仕草などから判断しなければなりません。治療の辛さを少しでも減らせる歯医者になりたいです。

この総合診療部で私はとても有意義な時間を過ごせました。自分が歯科医師になりたいという強

い動機とその方向性を改めて確認できましたし、
また自分が歯科医師になるのに足りない要素を見
直せました。

自分はまだ至らない点の多い未熟な歯学生です

が、ここで関わってきた親切な患者様方や厳しく
も優しい先生方の恩に報いるためにも将来立派な
歯医者になりたいと思います。



2年生だより

口腔生命福祉学科の場合

口腔生命福祉学科2年 藤井 香那

新潟も暑い暑い夏の時期に突入しました。

遡って春。五十嵐でのいわゆるキャンパスライフを終え、私たち2年生は右も左も分からないまま歯学部に移ってきました。

この前期を振り返ると、ずっとPBLに追われていたような気がします。口腔生命福祉学科の授業の特色といえるこのPBL。何をしているのかというと、ある症例(シナリオ)を読んで疑問を出し合い、自分たちで調べ、討論の中で解決し、知識を蓄積させていく、といったことをグループに分かれて行っています。自分たちで学習課題を抽出するという、講義とはまったく異なる形式に慣れず不安に思うことも多く、しばらくはとても苦労しました。しかし、自ら図書館やネットを駆使して調べ、討論で相手に分かりやすいように伝える努力を繰り返し繰り返し繰り返し……更に友人同士切磋琢磨した結果、乾いたスポンジのような私たちの専門知識も僅かながらも潤ってきたように思います。また、皆の経験談からも色んな発見があります。例えば、虫歯に関するシナリオなら虫歯治療を経験した人、矯正に関するシナリオなら矯正の経験がある人等の発言のおかげでシナリオが理解しやすくなったこともありました。

実習では、学校を飛び出して様々な施設へと赴き見学させていただいたり、歯形彫刻実習(カービング)で第一大臼歯を作ったり、バイタルサインをお互いに測り合ったり、他にも高齢者疑似体



上段左から2番目 藤井

験、グラム染色、解剖見学等々、様々なことを体験しました。実習は興味深いものばかりで、とてもわくわくしました。生命の凄さ尊さを改めて実感し、実際に見て触ることで知識をより確実なものにできたと思います。

次にクラスについて紹介します。特徴としては、2年生になって自分たちの「教室」というものができたので、多い時では週1回ペースで席替えをしています。そして、一緒に過ごす時間が1年次に比べ多くなったので、それぞれのキャラクターもはっきりと見えてきて、より賑やかで楽しいクラスになってきました。

個人的な話になりますが、クラスや部活で同級生・先輩方と関わっていると、自分はまだまだだなあと思われることがよくあります。よく、というか、ほぼ毎日です。今は歯科衛生士になりたいと思う以上に、人として成長したいという気持ちが日に日に増しています。思えば大学生活も約1年半経ちました。あっという間でした。4年間って、短いと思います。まだまだやりたいことは沢山あります。まだ2年だから……とは思わずに色々なことを経験していきたいです。もちろん勉学に対しても貪欲でありたいです。

最後に軽音楽部員として勝手ながら宣伝。歯学祭ライブ、定コンにぜひぜひお越しください！一同、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



PBL室はこんな感じです

歯学部生の今

—編入から大学生活について—

口腔生命福祉学科 3 年次編入 田 口 可奈子

私は歯科衛生士学校を卒業後、3年間某企業の歯科衛生士として勤務していました。主な業務内容は、幼稚園～高校での歯科保健指導と企業の歯科健診でした。また、母子保健・学校保健・思春期・職域保健・高齢者というようなライフステージに分けて活動を行っていました。働いていた3年間で一番感じたことは、口腔内の健康は全身の健康に直接関わっている重要なポイントであるにも関わらず、歯科に関心のある方はほんの一部分だということでした。それでも最近は歯科分野の重要性が多く言われています。しかし、ほとんどの方が身体のことには過敏に反応するのに、口腔内のことはほぼ手遅れの状態になってから病院に駆け込むというのが現状でみられます。その反面、口腔内の状態が良い方は生活習慣、歯科保健行動（歯みがき習慣等）が良い傾向にあるというデータもあります。多数の現場で活動し、歯科分野だけでは解決できないとわかりました。

私は口腔内の健康の重要性を伝えるためには、多職種との連携がより重要と考えています。しかし、歯科分野のみでは多職種へのアプローチが難しいのです。多職種の業務を理解することも重要ですが、医療に携わる人の流れをまず理解することが重要だと思います。

そこで、医療を広い視野でみられるよう、2010年4月に口腔生命福祉学科の3年生に編入しました。さらに、多職種や地域との連携を図るために社会福祉士という資格が大きなポイントだと思います。口腔生命福祉学科は「歯科衛生士」と「社会福祉士」という医療と福祉の橋渡しができるダブルライセンスを目指しているため、とても充実した学科だと思います。

編入生は歯科衛生士の資格を持っているので主に社会福祉の科目を勉強しています。全くと言っていいほど関わりのなかった分野なので理解に苦

しむ部分が多いです。しかし、今まで社会福祉に全く関心なく生活してきた訳ではないのですが、私の知らない社会福祉政策などが多くありとても驚きました。また、毎年といって良いほど各法律の改正があり、社会福祉というのは進歩と挫折を繰り返して適応していくものだと感じました。

特に4月から勉強を始めて、仕事をしていた時に私も納めていた年金保険や健康保険等の仕組みを学び理解できたことが今現在では一番良かったと思います。毎月の給料から自動的に差し引かれていたものなので全く理解していなかったです。年金問題や高齢社会、少子化と言われていても自分にはまだ関係ないことだと軽く考えていました。しかし数か月学び、このような社会や福祉での現状、問題点、課題などが他人事ではないと実感できました。

また、社会福祉士の活躍できる現場の領域の広さに驚きました。今後、社会福祉士を取得し歯科衛生士とのダブルライセンスとなった場合に自分がどのように活動できるかということが私の課題だと考えています。

社会人を経験してからの大学生というのは以前学生だった頃とは感覚が全然違うと実感しています。こんなにも私自身の物事の見方が変わってい

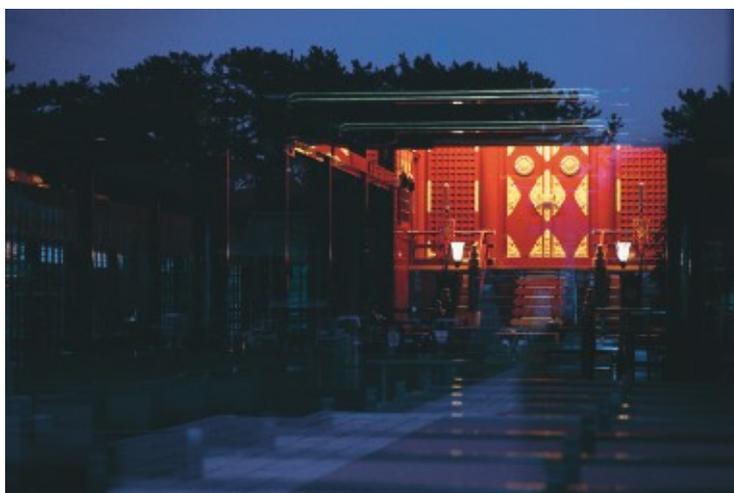


SHUWA ☆ ring (手話サークル) 懇親会写真

ると思いませんでした。しかし、現役3年生のクラスメイトの皆は将来の自分に対する意識が高く、私自身とても良い刺激を受けています。24人の少人数なクラスですが、全員仲が良くとても良い環境に編入できたと思います。今まで一歩踏み出せずにいた手話も大学でサークルを立ち上げ学び始めました。また、バスケットボール部に所属

し、定期的に大好きな運動もしています。最初は大学の自己責任というスタイルに戸惑いましたが、大学は自己意欲を伸ばすことに協力的な場所なので、この2年間で学校の勉強だけではなく積極的に幅広く学びたいと思います。

初心を忘れずに、目的意識を忘れずに、大学生活で多くの人と出会っていきたいと思います。



感 謝

口腔生命福祉学科4年 北村千夏

ついこの間入学したばかりだと思っていたのに、もう卒業を迎える最終学年となってしまう。時というのはあっという間に過ぎるものだと痛感しています。

さて、3年生の後期から始まった臨床実習は、4年生の春から本格的に始まりました。3年後期では、各診療科の雰囲気や少しは感じたものの、実習日数も少なく、歯科の知識や治療内容について勉強不足もあり、身についたとは言えない状態でした。先生（歯科医師の先生のことですが、いつも先生と呼んでいるのでそのように記します）との会話も歯科の専門用語が飛び交い、その内容をしっかりと理解することは出来てはいなかったと思います。しかし、4年生での臨床実習は実習日数も長く、そのような甘い状態で臨床実習に臨むことは絶対にできないと思い、実習に臨む前には今までの授業の復習や、教科書を広げよくイメージトレーニングをしていました。しかし、イメージしていたことと実践してみることは異なるということを感じたのは言うまでもありません。実際に、外来に出てみると、歯科の知識のなさや自分自身の技術のなさはもちろんのこと、自分のことで精いっぱいになってしまい、どのようにアシストをしたら先生が効率よく診療が進められるか、また、1番大切な患者様への配慮など周囲への気配りが出来ず、どれほど周囲の方々に迷惑をかけたか分かりません。また、どのように患者様とのコミュニケーションをとったら良いのか試行錯誤でした。その度に悩んだり落ち込んだりしていましたが、同期の子たちと励ましあったりお互いに教えあったりして、ここまでやってこれたのだと思います。改めて、同期の子たちの大切さを感じる実習でもありました。実習の半ばになれば、診療の流れや治療内容も理解できるようになり、少しは自分に余裕が出るようになりました。ここからは、自分のことだけではなく、周囲への配慮について考えられるようになりました。自分に不足していることをどんどん吸収できるよう



北村 左上

に、歯科衛生士さんのアシストの様子や患者様に対する対応をよく観察しては技を盗んだり、分からないことはしつこいくらい質問をしたような気がします。その度に、丁寧に答えていただいた、歯科衛生士さんを始め、先生や看護師さんにはとても感謝しています。まだまだ周囲への配慮は足りていませんが、初めて気のきくことが出来、先生や患者様に「ありがとう」と言われ、感謝された時は、本当に嬉しくて今でも鮮明に覚えています。この気持ちは忘れられないし、忘れてはいけないものだと思います。「ありがとう」と言えば、中学校の時の部活の先生に、「ありがとう」とは、「有り難い」という意味で、「有る」ことが「難しい」=存在が貴重であるということと教えられました。他人から何かをしてもらった時など、感謝の気持ちを伝えるために、または、自分一人ではできないこと、自分では気づかないことを助けてもらったときに出てくる言葉です。その貴重な意味の言葉を自然とかけられるような、また常に謙虚な気持ちで言えるような歯科衛生士になれるように、残りの臨床実習を励みたいと思います。そして、私は将来、歯科衛生士として働きたいと思っています。しかし、今まで福祉で学んできたことは患者様と接するうえで大切なことだと思うので、歯科はもちろんのこと福祉の方も更に勉強して身につけたいと思います。